



社会福祉法人友愛学園
広報誌 VOL32

発行日 平成30年9月15日
 発行人 社会福祉法人 友愛学園
 〒198-0001 東京都青梅市成木 2-107
 電話 0428-74-5453
 F A X 0428-74-6906
<http://www.yuaigakuen.or.jp/>



河津理事長就任

柘植理事長からのお話を受けたのは昨年八月でした。昭和四十二年に東京都中央児童相談所に勤めて以来、玉川大学、川崎市人権オンブズパーソン、淑徳大学と五十年間正規職員を続け、なお、兼任講師として教壇に立っていました。

都庁には三十六年勤め、玉川大学に招聘されたこのかた、福祉、教育関係で多数の理事、委員等を引き受けているものどを中心にくれからの人生を組み立てて行くか考えているところでした。

柘植理事長の飾らないお人柄には以前から敬意を抱いていたこともあり、知的障害の関係者で時々、歓談する「はてなの会」(柘植理事長がリーダーで命名者)で、都庁退職後もお会いしていた仲でもあって、私を見込んでいただいたなら期待に応えなければならぬと考えました。

友愛学園の名を知ったのは、五十年前のことです。児童相談所の職員として最初の仕事は措置施設の名前と所在地を知ることからでした。学園が青梅に移転して一年後のことになりました。また、知的障害分野に理解を深めたのは、昭和四十五年に民生局福祉研修課で知的障害施設の研修を担当してからで、この年から



三段階で系統的な研修を行うことになり、転動後様々な施設職員の研修を企画・実施する私にとってもこの分野が重点事業になりました。その後は、昭和四十七年の都立最重度施設(八王子福祉園、東村山福祉園)、翌四十八年に盲の知的障害者施設(小平福祉園)の開設研修担当ともなり、昭和六十年には開設研修を行った八王子福祉園の生活指導第一科長になり、昭和六十二年に都庁の福祉局精神薄弱者福祉課長になりました。また、四二歳の若い課長でしたが人生の先輩である施設長さんたちから歓迎していただきました。柘植理事長とのお付き合いもこの頃からになります。

その後も、平成五年に心身障害者福祉センターの次長、平成七年には福祉局総務部参事として福祉の街づくり条例を鈴木都政の最後に間に合わせて制定にこぎつけ、やはりこの年を最後に退職された金平副知事と中嶋局長から感謝の集いを設けていただいたことがあります。

さて、私の岳父は戦時中に小笠原の小中学校長を務め昭和十九年に内地引き上げ後、保谷第二小学校長を務めていました。実川元理事長は保谷小学校長を昭和二十六年まで勤められていましたので校長仲間だったのでしょう。岳父の葬儀に「人間坂東が亡くなったか」とため息をついて下さったとは亡き岳母が娘婿であ

る私に幾度か語ってくれたことでした。妻の実家は引き上げ後保谷市の都営住宅でしたから三鷹の実川邸とも近いところでした。

友愛学園で実川元理事長の碑や肖像画を見るにつけ何かの縁を感じています。また、「友愛」という名称に創設者の方々の思いがこめられていると感じています。新理事長として、きょうだい、同胞の愛という命を大切な理念としていきたいと思えます。どうぞ、よろしく願います。(理事長 河津英彦)

理事長退任にあたって

このたび、社会福祉法人友愛学園の理事長を退任することとなりましたが、まずは九年にわたる就任期間中に賜りました数々のご後援ご指導に對して、心より感謝申し上げます、併せてご期待に十分お応えできなかったことを、お詫び申し上げます。幸いにして後任には、最適任の河津英彦さんにご就任いただくことができました。ご活躍を期待しますと同時に、関係の皆様には変わらぬご協力のほどお願い申し上げます。

また、今回は理事長職退任に続き、名誉理事長を仰せつかることになりました。理事長職も非力な私には相応しくないものと痛感する九年間でしたが、さらにこのような名誉をお受けすることに大きな抵抗感もありました。しかし、次に述べますように私の人生の大半は友愛学園と歩み共にするものであったことを考えると、残り少ない余生を、何らかの形で学園と共に過ごしたいとの強い思いからお受けすることとしました。

◎友愛学園における私の第二の人生、その出発

私と友愛学園との縁は、前述でも触れたように、五十年前に始まりました。それは学園誕生の地三鷹市か

ら現在地移転（昭和四十年八月）後間もない昭和四十三年（一九六八年）の四月でした。当時は定員七十五名の児童を対象とする施設（精神薄弱児施設）一か所を経営する規模の法人でしたが、児童指導員として就職しました。それまで東京都外所在の児童養護施設で十二年ほどの経験はありましたが、知的障害児関係の業務については素人同然でしたが、この時を出発点にして友愛学園と共に歩むことになりました。

◎様々な課題を巡って

この誌面でこの詳細を述べることは不可能ですが、この五十年間は友愛学園にとっては様々な課題、その解決にいとまのない日々であったように記憶しています。特に前半の二十年（おおよそ）に思いをいたすと

き、その時々状況が強烈ともいえる形で記憶に残っています。それは、時には事業の維持さえ危ぶまれるかのような局面もあったからであります。しかしその後の現在に至る二十五年間では、掲げてきた「障害を持つ人々が必要とすることの全てに配慮する」という目標のもとで、いくつかの事業を新たに立ち上げ、一定の実績を積むことができたと確信しています。その背景には前半の経営困難な状況を乗り越えてきた頑張りがあったからであると思っています。

言い換えれば、前半は新しい友愛学園を造るための「基礎作り」の時代であったと考えるべきでしょうか。

◎力となつて頂いた方々

思い出を語るとき、過去様々な人々の力が大きな力になってきたことを思い出しますが、ことが困難であった時ほど鮮明であります。その人々は、時には学園近くの住民の方々であったり、利用者のご家族、時には利用者ご本人、等々枚挙に暇がありません。またこの人々の力を借りながら、時には内部での見解の相違から、トラブルに見舞われながらもそれを乗り越えて頑張ってきた役員の方々の皆さんのご功績も特筆したいと思えます。

この稿の結びとして、友愛学園に就職以来上司としてまた人生の師として、十九年間にわたりご指導頂いた、友愛学園創立グループの中心であり、二代目理事長であった実川博先生からの教えを紹介します。先生は人と話すときいつもじっくりと相手の話を聞いておられました。そして我々の声に對して、即答か後日かの違いがあっても、必ず答えを出されていきました。この辺り前のことがら、今後の法人を支え発展させるキーポイントの一つとなつて行くことを願って、永年にわたるご厚誼にたいするお礼といたします。(柘植吉治)



理事長・名誉理事長就任披露の会

六月二十二日（金）に行われた理事会にて、新たに河津理事長の選任及び従来の理事長であった柘植前理事長が名誉理事長へ着任されました。七月七日（土）青梅スイート・プラムにて「理事長・名誉理事長就任披露の会」が盛大、かつ華やかに行われました。式の冒頭では、これまで長きに渡り、法人へご尽力を頂いた柘植前理事長へ感謝の意も込めて、



新たに就任された河津理事長より、感謝状と記念品が手渡されました。法人関係者五十余名を招き、新旧理事長から今後の決意と法人が歩んだこれまでの思いが込められた挨拶があり、新たな友愛学園の船出を祝す会となりました。



感謝状と記念品の授与式



挨拶をされる柘植前理事長

人事情報

平成三十年度

●法人役員（敬称略） （理事定数六名）

理事長 河津 英彦
理事 寺崎 勝成
理事 板垣 修
理事 山川 勇

評議員（定数七名）

内山 敏
山本 以文
木崎 樹也
大倉 十彌也
井原 哲人

監事（定数二名）

橋本 幸久
南 進

●執行体制

法人本部 事務局長 内山 敏
事務次長 岡部 修
児童部 施設長 安達 美加
副施設長 渡部 光行

成人部

副施設長（入所） 石川 淳
副施設長（地域） 山本 以文
副施設長（成人） 尾澤 栄子
副施設長（児童） 宮崎 啓太
副施設長（就労支援センター） 福田 和弘
副施設長（成人） 白井 秀明
副施設長（成人） 三宅 聖子
副施設長（成人） 板澤 純子
副施設長（成人） 平井 真琴

はあとびあ原宿施設長

中村 俊久

青梅市障害者就労支援センター

所長 中村 俊久

●昇任・異動

法人本部 事務局長 内山 敏（昇任）
事務次長 安達 美加（昇任）
児童部 施設長 渡部 光行（昇任）
施設長 廣瀬 明恵（異動）
保育士 柚木 翔太（異動）

●退職者（三月末）

法人本部 事務局長 菅井 敏文
事務次長 中野 里絵
児童部 施設長 永井 隆
施設長 飯沼 健斗
保育士 田中 千晴
保育士 小澤 恵子

●新規採用者（四月一日付）

児童部 児童指導員 小寺 悠太
保育士 岩崎 汐莉
成人部 生活支援員 中居 浩明
生活支援員 小倉 淳史
生活支援員 今山 俊昭
生活支援員 黒田 雅枝
生活支援員 西山 隼一
生活支援員 山田 あや
生活支援員 並木 萌里

成人部

地域副主任 濱里 美奈（昇任）
生活支援員 久保田 貞男（昇任）
地域支援員 杉本 佐紀（異動）
地域支援員 大矢 陽子（異動）

はあとびあ原宿

成人施設長 板澤 純子（昇任）
入所主任 安藤 健（昇任）
入所副主任 杉田 圭（昇任）
児童主任 安藤 真希（異動）
児童副主任 岡野 奈央（昇任）

代々木の杜

主任保育士 山内めぐみ（異動）
事務副主任 渡邊 孝嘉（昇任）

事務員

事務員 山内めぐみ（異動）

●新規採用者（四月一日付）

児童部 児童指導員 小寺 悠太
保育士 岩崎 汐莉
成人部 生活支援員 中居 浩明

成人部

生活支援員 小倉 淳史
生活支援員 今山 俊昭
生活支援員 黒田 雅枝
生活支援員 西山 隼一
生活支援員 山田 あや
生活支援員 並木 萌里

はあとびあ原宿

生活支援員 小倉 淳史
生活支援員 今山 俊昭
生活支援員 黒田 雅枝
生活支援員 西山 隼一
生活支援員 山田 あや
生活支援員 並木 萌里

代々木の杜

主任保育士 山内めぐみ（異動）
主任保育士 渡邊 孝嘉（昇任）

事務員

事務員 山内めぐみ（異動）

はあとびあ原宿

主任保育士 山内めぐみ（異動）
主任保育士 渡邊 孝嘉（昇任）

代々木の杜

主任保育士 山内めぐみ（異動）
主任保育士 渡邊 孝嘉（昇任）

代々木の杜

主任保育士 山内めぐみ（異動）
主任保育士 渡邊 孝嘉（昇任）

【平成30年度資金収支予算書】

(単位：円)

勘定科目	拠点区分									法人合計
	本部	児童部	成人部	はぁとびあ 原宿	代々木の杜	青梅 福祉作業所	ともすてっぷ	青梅市 障害者 就労支援 センター		
事業活動 収支	収入計	2,047,000	244,304,000	477,004,000	426,894,000	81,550,000	123,338,000	77,869,000	28,954,000	1,461,960,000
	支出計	13,888,000	227,113,000	430,367,000	419,472,000	80,134,000	117,749,000	63,580,000	28,650,000	1,380,953,000
	資金収支 差額	△11,841,000	17,191,000	46,637,000	7,422,000	1,416,000	5,589,000	14,289,000	304,000	81,007,000
施設整備 等収支	収入計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	支出計	0	52,985,000	8,920,000	2,536,000	343,000	1,656,000	200,000	0	66,640,000
	資金収支 差額	0	△52,985,000	△8,920,000	△2,536,000	△343,000	△1,656,000	△200,000	0	△66,640,000
その他の 活動 収支	収入計	24,803,000	50,000,000	0	153,000	36,000	0	0	12,000	75,004,000
	支出計	201,000	1,695,000	23,200,000	5,039,000	1,109,000	3,800,000	4,690,000	316,000	40,050,000
	資金収支 差額	24,602,000	48,305,000	△23,200,000	△4,886,000	△1,073,000	△3,800,000	△4,690,000	△304,000	34,954,000
予備費支出	200,000	1,000,000	500,000	0	0	0	0	0	0	1,700,000
当期資金収支差額	12,561,000	11,511,000	14,017,000	0	0	133,000	9,399,000	0	0	47,621,000
前期末払資金残高	19,596,000	38,749,000	139,409,000	0	0	34,251,000	19,658,000	0	0	251,663,000
当期末支払資金残高	32,157,000	50,260,000	153,426,000	0	0	34,384,000	29,057,000	0	0	299,284,000



寄付者御芳名

ありがとうございました。



(順不同・敬称略)

青木はる子・秋間信雄・浅香昌子・新克己・五十嵐清・五十嵐康・五十嵐肇・石川ひとみ・石井茂男・石塚勇・板垣修・伊藤正直・伊東重信・上中小春子・梅の実保護者会・浦上雄次・榎本由一・榎戸俊行・榎本勝・青梅市社会福祉協議会・(株)オレンジ・ジャムコ・春日俊介・勝又田功・金子信也・川室清一・木崎樹也・岸田敏久・木森慶蔵・(株)協立防災工業・日下伝・日下愛子・国立厨房サービス(株)・熊木正則・倉川浩・グループホームとも・黒米博・鼓代神伊藤芳男・小林弘政・小嶺幸一・小宮山都子・小嶺典弘・小嶺博昭・小山隆・コロロ学舎・坂本登・坂元昌子・坂本真理子・佐久間淑子・佐藤栄一・佐藤登美子・島崎ツル子・(株)島田組・(有)島田板金塗装・清水宏悦・昭和会館・須田恵美・一般社団法人すばる・(株)青和施設工業所・田中芳枝・(有)多摩自家用・多摩川流域支援生活ネットワーク・田村洋子・九十九園・柘植吉治・東京すまいるの会・富岡一夫・中村俊久・なかも亭・中山正雄・永野初美・成木一丁目自治会・成木二丁目自治会・南部幸久・西村幸治・NPO法人にここ・(有)野口商店・野口米吉・野島壮一・野村スエ・芳賀沼博・波多野市雄・花の里・羽村市手をつなぐ親の会・福田和弘・福島文雄・藤倉学園・藤野雅俊・藤井電気・堀口智子・三ツ橋茂男・三宅聖子・(有)村松保険サービス・室本博・本木公子・山本美八郎・八千代銀行原宿支店・柳原麻理子・山川勇・山岸巖・八幡学園保護者会・横山順子・吉岡電気管理事務所・吉岡正夫・吉川博千・和久井義夫・友愛学園児童部保護者会・友愛学園成人部保護者会

平成三十年度事業計画等について

事務局長 内山 敏

【法人本部】

体制の再整備を行い、数年後の会計監査人の導入を見据え、事務次長が経理事務を集約し、事務局長・事務長が本部業務を行う体制とします。また、旧来の総務・経理・広報部を事業管理部・人材育成部・広報部に改め、事業管理部は施設長を中心とし、人材育成部・広報部は副施設長、主任を中心に実務を遂行することとします。

【児童部】

経過措置の障害者支援施設を廃止し、福祉型障害児入所施設として運営をしていくこととします。完全な経過施設となることから、進路支援に力点を置き、自立の行動がとれるような支援に努めます。また、生活棟の修繕を行い家庭に代わる生活の場に相応しい環境の整備を進めます。

【友愛子どもクラブとことこ】

7月から新しい建物でのサービスマ提供を開始します。これにあわせて肢体不自由児の受け入れも開始します。できるだけ多種多様な活動を提供し、遊びを通して学び、成長していくことをコンセプトに

児童・保護者のニーズに応え、安心安全を確保しながら、サービスマの質の向上に努めます。

【成人部】

高齢化、そして重度化が進んでいます。健康面等への配慮とともにその方らしい人生の終末期の迎え方に寄り添う支援に努めます。一方で新たに入所する若い方を含めた支援のあり方について検討を進めます。

生活介護での創作活動では、これまでを継承し、積極的に成果の発表の機会を設定して文化・芸術活動をさらに推進していきます。

【グループホーム】

昨年9月に「すってぶ小中尾」のユニット「あすなろ」が開所しました。今後においては、一人暮らしを希望される方を対象に一人暮らしに向けた支援を検討します。「とも」は委託による運営から独立し、10月より一般社団法人として運営をしていく予定です。

【相談支援事業・おおぞら】

計画相談を通して障害福祉サービスマを利用しながら、安心して生活できるように支援をします。また、グループホーム支援員兼務ですが、相談支援を担当する職員2

名を配置します。相談支援専門員として育成して資格要件に達し次第、研修を受講して相談支援事業の充実を図っていきます。

【青梅福祉作業所】

今年度新たに創設されたサービスマである就労定着支援事業を10月より、開始します。また、昨年度末をもって自立訓練事業を廃止し、就労継続支援B型と就労移行支援の二つの事業に絞り、これまで以上に就労を意識した支援に重点を置いて運営をしていきます。そのために作業環境を整備するとともに、より高額な工賃を得られる作業の受注に努めます。

【青梅市障害者就労支援センター】

今年度より、精神障害者の雇用の義務化と法定雇用率も変更となり、門戸が広くなります。アセスメントの強化により、ジョブマッチングを図り、雇用拡大につなげていきます。また、職場訪問等だけでなく、生活面への支援を含めて関係機関と連携をしながら、職場定着にも注力していきます。

【はあとびあ原宿】

施設入所支援・生活介護では、開所から10年となり、加齢に伴う障害の重度化、身体機能の低下が

見られるようになりましたが、活気に満ちた生活が送れるように、創作活動や生産活動をこれまで以上に充実させていきます。また、地域の芸術活動に積極的に参加をしていきます。

児童発達支援では、より専門的な療育・指導の実施に努めるとともに、定期的なペアレントトレーニングを実施して保護者の子育てに寄り添う支援に努めます。

【代々木の杜】

今年度より、障害児相談支援事業を開始します。

療育では、はあとびあキッズと連携をして保護者の子育てに寄り添う支援に努めます。また、インクルーシブ教育の考えに基づき、地域の保育所・幼稚園等や学校との連携を深め、就園、就学に際して不安なく移行ができるように支援をしていきます。

末尾になりますが、今年度より、事務局長を拝命いたしました。皆様方のお力をお借りしながら、微力ではございますが、障害福祉の一端を担っていければと思います。よろしくお願い申し上げます。

【事業活動内訳表】平成29年4月1日～平成30年3月31日					(単位：円)
勘定科目		社会福祉事業	公益事業	内部取引 消去	法人合計
		<ul style="list-style-type: none"> ・本部 ・児童部 ・成人部 ・とも・すてっぷ ・青梅福祉作業所 ・はぁとびあ原宿 ・代々木の杜 	青梅市 障害者就労支援 センター		
サービス活動	サービス活動収益計	1,391,460,013	26,369,415	0	1,417,829,428
	サービス活動費用計	1,330,102,830	26,569,243	△600	1,356,671,473
	サービス活動増減差額	61,357,183	△199,828	600	61,157,955
サービス活動外	サービス活動外収益計	11,822,603	46	△600	11,822,049
	サービス活動外費用計	4,207,082	0	0	4,207,082
	サービス活動外増減差額	7,615,521	46	△600	7,614,967
通常増減差額		68,972,704	△199,782	0	68,772,922
特別増減	特別収益計	19,965,246	11,440	△11,486	19,965,200
	特別費用計	25,271,123	46	△11,486	25,259,683
	特別増減差額	△5,305,877	11,394	0	△5,294,483
繰越活動 増減差額	当期活動増減差額	63,666,827	△188,388	0	63,478,439
	前期繰越活動増減差額	338,471,067	△744,372	0	337,726,695
	当期末繰越活動増減差額	402,137,894	△932,760	0	401,205,134
	基本金取崩額	0	0	0	0
	その他積立金取崩額	55,000,000	0	0	55,000,000
	その他積立金積立額	64,000,000	0	0	64,000,000
	次期繰越活動増減差額	393,137,894	△932,760	0	392,205,134

【貸借対照表】平成30年3月31日現在					(単位：円)
勘定科目		社会福祉事業	公益事業	内部取引消去	法人合計
資産	流動資産	362,235,784	2,667,967	△22	364,903,729
	固定資産	2,002,460,707	1,030,400	0	2,003,491,107
	基本財産	783,618,394	0	0	783,618,394
	その他の固定資産	1,218,842,313	1,030,400	0	1,219,872,713
	資産の部合計	2,364,696,491	3,698,367	△22	2,368,394,836
負債	流動負債	129,824,253	3,600,727	△22	133,424,958
	固定負債	116,238,184	1,030,400	0	117,268,584
	負債の部合計	246,062,437	4,631,127	△22	250,693,542
純資産	基本金	253,204,928	0	0	253,204,928
	国庫補助金等特別積立金	453,741,232	0	0	453,741,232
	その他の積立金	1,018,550,000	0	0	1,018,550,000
	次期繰越活動増減差額	393,137,894	△932,760	0	392,205,134
	(うち当期活動増減差額)	63,666,827	△188,388	0	63,478,439
	純資産の部合計	2,118,634,054	△932,760	0	2,117,701,294
負債及び純資産の部合計		2,364,696,491	3,698,367	△22	2,368,394,836

児童部

新しい時代を迎えます

今年度の児童部は、大きな変化の中でスタートしました。長年にわたって、友愛学園児童部を支えてきた内山施設長が法人事務局長に就任、四月から新しく施設長に渡部が就任しました。

今までは、内山事務局長に導かれ、支えられながら職員は業務に励み、子どもたちは安心して生活を送り、ご家族は信頼してお子さんを預けることができる児童部でしたが、これからは、新しい時代を築かなくてはなりません。職員一同、気持ちを新たに業務に取り組み、子どもたちの成長を育んでいくため、一層の努力を重ねていきます。

三月の理事会で、児童部の障害者支援施設の指定延長はせず、廃止することが決まりました。今までは、高等部を卒業しても「加齢児」として、障害者支援施設としての児童部で生活することができましたが、この四月からは、それができなくなり、卒業後に向けた進路支援がより大切になってきます。児童部として、進路支援をチームとして計画的に取り組むため、本年度より「進路委員会」を立ち上げました。子どもが高等部入学時より、行政機関、学校、ご家族と連携を密にし、卒業後（将来）に向けて体制を整え、計画的に進路支援に取り組んでいきます。

あわせて、ここ数年課題となっている職員の育成についても、「支援力向上委員会」を立ち上げました。児童部で経験の長い職員を中心に、新任職員や経験の浅い職員の育成と中堅職員の技量向上を図りながら、支援課題を整理し、子どもたちの生活の質の向上に取り組んでいく事としました。職員一人一人の自覚を促しながら、新しい児童部の支援を構築していきたくと考えています。

友愛こどもクラブとことこ新しい療育のスタートです。建て替えが終了し、七月から新しい建物での活動がスタートしました。成木の里の豊かな自然にマッチした木の香り漂う新しい建物で、子どもたちが健やかに育まれていくよう、気分も新たに療育に取り組んでいきます。

(施設長 渡部 光行)



青梅福祉作業所

えています。

また、六月の理事会では就労定着支援事業の開始について議決されました。この事業は報酬改定等見直しに際して国が定めた平成三十年からの新規事業です。当作業所のような事業所から企業へ就職した人達がすぐに離職しないように生活面の支援や企業をはじめさまざまな機関と連携を図っていくというものです。当作業所では今年に入って六名の方達が企業就労しています。そういう人達に対して今まで以上に充実したアフターケア等を提供していきたいと考えています。

さて、工賃向上は当作業所において最優先課題の一つですが、利用者の方達が誇りを持って作業をしている青梅市広報紙の丁合作業が今年度から受注できなくなり年度初めからピンチを招いています。

そこで友愛学園成木地区事業所の園庭等除草作業を受託できるようにになりました。エンジン式芝刈り機・刈り払い機、ブローを装備していい汗を流して取り組んでいます。

除草でお困りの方、青梅福祉作業所には是非ご相談ください。お待ちしております。

(所長 福田 和弘)

平成三十年度を迎えるにあたって、まず報告させていただくことは、平成二十九年度末で自立訓練を廃止したことです。東京都から移譲を受けて二年目の平成三十年度に指定を受けてから十年の節目でした。当時の友愛学園は自立支援ホームを開設し、グループホームも開設が続いていました。地域に根付く通所型事業所として、家庭からグループホームへの道筋をつくっていくことが目的でした。移譲を受けてから当作業所の利用者がグループホームへ移行した数はグループホームと作業所を同時期に利用開始するケースを含めると十名を超えます。しかしながら、有期限利用（二年間）の自立訓練とのマッチングは必ずしもうまくいきませんでした。もっともグループホームへの移行を支援する役割は当作業所としては十分に果たせたと自負しております。

今年度は国の報酬改定の年度にあたり、就労系の障害者福祉サービスへの報酬で成果主義がより強化されました。特に就労継続支援B型事業所の報酬が前年度の平均工賃に同じるといふ制度には衝撃が走りました。当作業所としては、主たる事業の就労継続支援B型と従たる事業の就労移行支援の二つの就労系に重点を置き、自立訓練を廃止したところでもあります。これは国の施策のタイミングに合致したと考え、前向きに捉



成人部工房の半期の活動

施設見学ツアー&作品展示

昨年十二月二十一日、成人部工房にたくさんの方々が見学に来られました。この、見学ツアーは平成二十九年、厚生労働省の『障害芸術文化活動普及支援事業』の一環で、創作活動において多彩、かつ先駆的な取り組みをしているということ、友愛学園成人部に白羽の矢が立ちました。

参加者の皆さんは、担当職員の内、工房の作業を見学。職員からは、工房で使っている材料は、近隣地域の間伐材や桑の皮など自然素材のものを多用することで、緑豊かな青梅の地域性を積極的に出していることを伝えました。



また、利用者が参加する工房は、体験しながら自分で見つけてもらっていること、活動を通じてその人の好きなもの、続けられることを大切にし、続けることが個々人の自信につながっていると考えていることを伝えました。

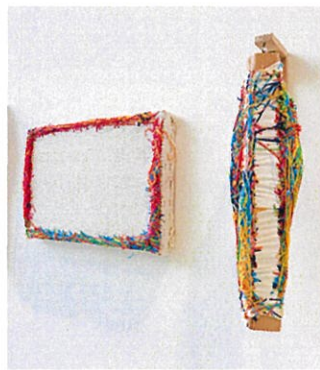
横浜市あざみ野ギャラリー

フェローアートギャラリー



神奈川県横浜市青葉区にある、横

浜市民ギャラリーあざみ野にて、フェローアートギャラリー Vol.30 『浅井治江展』が四月二十八日から七月十二日まで開催されました。フェロー（なかも）アートギャラリーは誰もが障害のあるなしで区別されることなく、同じ地平で認め合える豊かな関係性が築かれることを願って名づけられました。



これまでもたくさん作家さんたちが紹介される中、今回は友愛学園成人部で活動している浅井治江さんが紹介されました。独特な刺繍の手法で仕上げられた、12展の作品が展示されました。浅井さんの作品の特徴である、糸の『盛り上がり』を楽しんでもらえるように、正面からだけでなく、横、斜めなど、さまざまな角度から作品を鑑賞できるように展示されました。色とりどりの糸の粗密、ぼっかり空いた空間の妙をたくさんの方々楽しんでもらえました。



山本寛齋「日本元気プロジェクト」



六月九日、六本木ヒルズアリーナにて、今年も「日本元気プロジェクト」が開催、工房の作品が多数登場！

☆七月に工房YUAIの作品集を発売します。ご希望の方はお問い合わせください。(成人部 水島 聖子)

重度・高齢化支援の現況

青梅は盛夏の季節を迎えています。梅雨も早々に明けて、これからは地域での本格的な行事も始まり、賑やかな夏秋の季節の始まりです。

昨年度は、重度・高齢化に対応した運営の見直し、医療との連携、リハビリの強化、虐待防止・権利擁護への取り組み、認知症への対応、強度行動障害研修を通しての人材育成事故「0」など山積する課題に取り組む一年でした。

入所施設が抱える共通した課題、重度・高齢化は、成人部でも本質的な解決策はなく、個々の特徴を一つひとつ見極めその対応に当たっています。

一般の高齢者より、加速度的に機能低下が進むため、腸閉塞などの慢性疾患、肺炎、筋力低下、難病などによる重度化や急変、また長期入院が定員の二割を超える特徴的な年でした。

利用者の入院延べ日数千三百日を超え、急性期、救急病院治療後の療養型病院への転院などの調整、入院に伴う稼働率の低下などに悩まされました。

老衰、病气、障害の進行により、人生の終末期をどう迎えるかというQOLの維持、向上と新入所する二十歳未満の若年層の支援を再構築す

るといふ複雑な構造のなかにいます。

職員は支援の中で遭遇する、急変や生死という事実の前に共に立ち、命の尊さや慈しむ心を学びますが、医療的処置や精神的ケアなど高い専門性によった支援には十分な理解や対応ができていないのが現状です。

それでも出会いと別れの事実を将来への希望につなぎ、病気であっても、高齢であっても、誰もが安心して利用できる成人部を創りたいと思います。

今年度重度・高齢対応のための研究会を設け、職員自ら待する思いです。

建物の建替え、住環境だけでなく、介護技術の向上、地域の医療機関との結びつき、食生活、日中の過ごし方、運動機能向上、介護保険移行、地域包括など支援の総合的なあり方について研究し、支援力の底上げを目指します。

都内外の障害者施設への見学、派遣研修、情報交換などに取り組み、問題意識を常に高めていきます。

入所施設とグループホームの拡充、相談支援事業の充実など、地域の中にある資源として、どのような存在になれるのか、地域社会と一体的に交流できる事業の拡大など、施設という枠を超えた連携が求められています。

本年も前に進みたいと思います。

(施設長 山本 以文)

障害者就労支援センター

当センターは平成二十年十二月に相談支援を開始し、早十年が経過しようとしています。この間に七百名を超える方からの相談をいただきました。

また、当センターを利用され昨年度就職した方は三十八名おり、開所以来二番目に多くなった一方で、離職者が二十四名で、ここ数年で最も多くなっています。内十三名については再就職を果たしています。就職については、本人の希望と企業の採用状況などがうまくマッチングした時にはこのほかスムーズに運ぶことがあり、その逆もあります。タイムリングというものも重要なファクターであると感じるところです。

離職された方においては、心身の不調、人間関係の問題、契約満了、会社の閉鎖、自身のステツプアップへの模索等理由は様々です。実際支援にかかわっている者として、表面上の数字だけに振り回されてはいけないと痛感しているところです。

幸いにも企業の受け入れ態勢が年々整備され、障害者が安心して働けるようになりつつありますので、事業の根幹である「就労・定着支援」に向けて引き続き尽力していく所存です。

そのような状況の中、昨年度は障がい者サポートセンター利用者を対象に、庁舎内実習を試行的に行い、

今年度の本格実施に向けての布石としました。

また、登録者交流会では従来のレクリエーション的な催しを一回に留め、関係機関、一般市民を対象とした「防犯講習会」を開催し、一定の成果を収めることができました。今年度はレクリエーションを二回、その他八月に「親なきあと」についての講習会を開催しました。

さらに、今年度の重点目標については、一、離職者・休職者が増加傾向にあることに鑑み、さらなるジョブマッチングの強化、二、関係機関とのさらなる連携を図り、就労・定着支援に努める、三、就労移行支援事業所との連携を強化し、就職準備段階の方の訓練、また就労移行支援事業所利用者の掘り起こしの実施、四、特に発達障害者・高次脳機能障害者の求職・休職者の支援に向けて障がい者サポートセンターとの連携を図り、就労・定着支援に努める、五、庁舎内実習を開始しジョブマッチングを図る、また地元企業に実習依頼し、就労を目指す方への体験の場とする、と設定しました。

今年度も関係各位のお力添えを切にお願いいたします。

(所長 中村 俊久)

平成三〇年度をむかえて

はあとぴあ原宿・代々木の杜

はあとぴあ原宿は、渋谷区障害者福祉課と友愛学園の知恵と行動が障害のある人の豊かで充実した「くらしと生きがい」を追求して十年過ぎました。

(1) 施設入所支援・生活介護

① 利用者の自立と社会参加の促進
利用者の自立と社会参加を促進するために地域との交流を積極的に進めます。区の提唱している「ちがいを力に変える街しゅや」というダイバーシティの考え方に則ったオリピック・パラリンピックに向けてのプロジェクトに参加し、デザイン専門学校の学生と芸術活動を通しての協働作業から、新渋谷区庁舎の完成に伴う『しゅや新製品』の製作に取り組みます。

② 創作活動の充実

自由でのびのびとした感性が織り成すアート活動を職員の積極的な創意工夫により生活の中で楽しみます。

③ 重度化・高齢化への対応

理学療法士と支援者による週一回のアセスメントとカンファレンスを丁寧かつ有効に実施し、生活リハビリテーションを強化し継続します。

④ 住環境の整備

加齢による心身の変化と、利用者の増加に伴う施設の改修や設備整備

を必要に応じて迅速に対応します。

(2) 児童発達支援

(はあとぴあキッズと代々木の杜)

① 療育サービス内容の整備

就園・就学を見据えた個別支援計画支援プログラムの充実を図ります。

② 地域関係機関との連携

個人情報に留意の上、「移行支援」をふまえて保育所等への訪問を実施します。また、関係機関と協力して保護者と兄弟児への支援も充実します。

③ 専門的支援の充実

医療的ケアが必要な児童に対する支援については、渋谷区と協議の上、環境整備と教具の充実を図り、安全で専門的な療育・指導の実施に努めます。

④ 多様な家族支援の実施

在籍児の保護者を対象にペアレントトレーニングの継続実施と先輩保護者ベアレントメンターを活用した茶話会を開催します。また父親学級の開催により、父親の療育や子育てへの理解を深め父親同士の交流をします。

⑤ 代々木の杜放課後等デイサービス

小学校との連携を強化して、個人プログラムの効果査定と評価をします。

(3) 相談支援事業

相談支援事業を平成三〇年度から代々木の杜において実施します。障害児とその保護者が安心して暮らせるように、福祉サービスの有効活用の提案と将来に見通しのもてる『切れ目のない支援』を目指します。

(所長 三宅 聖子)

《施設入所支援》

利用者が、家族と同じ地域で、安心して、快適に暮らせるよう、支援します。最近では、生来の持ち味を発揮され、仲間やスタッフと共に、心からの笑顔で、くつろいでいる姿を見る機会も増えていきます。週末には、今日は何にしようかと、小グループで楽しめる余暇を選びます。また個人の好みに応じた外出や外食も行います。季節感を肌で感じ、心身の健康も維持できるよう、散歩や買い物のお供もこまめに作っています。各々に似合った衣類を身に付けて出かけます。

スタッフは、毎日の食事・排泄・入浴・睡眠の把握・バイタルチェック・清潔の保持等、日常生活のあらゆる場面での気づきを大切に、変化を見逃さないようにし、必要な処置を速やかに行います。居住空間を整える際には生活する利用者の視点で考え、実践します。住環境の再整備が必要な箇所については、渋谷区に連絡・調整を図り、速やかに修繕・交換をします。

昨年度は、加療の必要から、本人に適した施設に移った利用者がいなくなっても、その方らしい年の重ね方や、その方らしい自立した暮らしができるよう、配慮した支援を継続します。

《生活介護》

利用者が、得意とするところを活かし、夢中になれるものを見出せるよう、支援します。各自に合った自立と社会参加、創作活動の充実、高齢化・重度化という心身の変化への対応に加え、契約者数の定員超えに伴う職員体制の整備という課題があります。各工房活動においては、複数の支援スタッフによる体制を取り、個別支援の充実に努めます。利用者一人ひとりが、その日、その時に来ることに精一杯取り組み、満足感を得ることを目指します。その積み重ねが個人のアートという形になることもあり、また音楽やレクリエーション、仲間やスタッフとのコミュニケーション、仲間やスタッフとのコミュニケーションなど、喜びを共に感じたり、楽しみを共に味わったりすることもあります。園芸活動や製菓活動、ウォーキングがきっかけとなり、地域の方との輪も広がりました。地域のプロジェクトにも引き続き、積極的に参加します。

《短期入所支援・ミドルステイ》

昨年同様、緊急・重度・長期・新規の傾向は続いています。安心して多くの方が利用できるよう、地域相談支援事業所や、他の関連事業所と連携して、受け入れを行います。

(副所長 板沢 純子)

《児童発達支援事業》

「はあとびあキッズ」

今年度、児童発達支援事業の重点目標のひとつは、保護者支援です。保護者会や親の会を通して保護者同士のつながりを支えるとともに、日々の子育てを楽しめるように、親子で過ごす時間を大切にしたいと思っています。

その活動の一つとして、プールセラピーを再開しました。週に一度、二、三歳児の子どもたちが保護者の方と一緒に、区のスポーツセンターのプールへ出かけます。貸し切りのプールで親子でのびのび、ゆったり過ごします。

五月には、グループごとに新宿御苑へ遠足に行きました。広々としたところでいっぱい走り、お弁当を食べ・日々のあわただしい生活の中でゆっくりできる時間は子育てのエネルギーになります。ひとりで子育てを抱え込まないように支えていきたいと思っています。



「日中一時支援」

特別支援学校の小学部一年生から高等部一年までの十二人が、ほぼ毎日利用している日中一時支援。十二人の年齢差が大きく、活動の内容には本当に悩みます。その中でも、「太鼓の会」と呼んでいる音楽活動はみんな大好きです。それぞれが自分の思いを思い切り表現できる時間、子ども達の表情が輝いています。



「代々木の杜ピア・キッズ」

今年度は、保護者支援とともに、保育所等訪問支援を視野に入れつつ、地域との連携を強化していきます。

隣接する保育園とは、一緒に活動することが今までもありましたが、今年度は週に一度、園庭遊びの時間に就園前の児童一名が遊びに参加することになりました。療育と保育、教育の連携をいろいろな形で実現していきたいと考えています。

(副所長 平井 眞琴)

◆平成三十年年度 辞令交付式

平成三十年四月二日、成人部多目的ホールにて、本年度の辞令交付式が行われました。これまで事務局長を務められた菅井前事務局長に代り、それまで児童部施設長であった内山事務局長が就任され、柘植理事長から一番始めに発令通知書が手渡されました。

その他の異動や昇格の職員に加え、今年度は十四名の新規採用職員にも辞令が交付されました。それぞれが緊張した面持ちの中、新しい仕事に決意の表情が伺えました。



◆新任職員研修

辞令交付式の後、新任職員に対して、一回目の階層別研修である新任職員研修が四月二日と三日の二日間にわたって実施されました。

理事長による法人の歴史と理念について講説の他、法人組織や障害者支援の法律・制度、援助方法など多岐にわたる内容となりました。二日間通しての研修ではありましたが、参加した新任職員の真剣に耳を傾ける姿勢に、これから配属される各事業所での活躍に期待が膨らみました。



この後も先輩職員達と実践経験を積みながら必要な知識や技術を習得していきます。

**法人
研修** 人事考課研修

四月二十日（金）、成人部多目的ホールにて、午前中は新任職員を対象に被考課者研修。午後は主任・副主任に昇格して新たに考課者となった職員を対象に考課者研修が行われました。

人事考課制度は継続的な研修によって考課の手順や面接の技術などを学ぶ時間が大切となっています。

**法人
報告** 理事会・定時評議員会の開催

成人部多目的ホールにおいて、六月六日（水）に理事会が、二十二日（金）に定時評議員会が開催されました。

◆理事会

- ・平成二十九年度事業報告
 - ・平成二十九年度決算
 - ・役員等の報酬の支給及び費用弁償に関する規程の一部改正
 - ・青梅福祉作業所就労定着支援事業の開始（申請）
 - ・代々木の杜障害児相談支援事業運営規程の制定
 - ・友愛子どもクラブとことこ運営規程の一部改正
 - ・経理規程細則の一部改正
 - ・役員の退任に伴う新役員候補
 - ・定時評議員会の開催
- 以上の九議案が審議に付され、い

れの議案についても質疑応答の後、満場一致で決議されました。

◆定時評議員会

- ・平成二十九年度事業報告の承認
 - ・平成二十九年度決算の承認
 - ・役員等の報酬の支給及び費用弁償に関する規程の一部改正
 - ・役員の退任に伴う新役員の選任
 - ・青梅福祉作業所就労定着支援事業の事業計画及び予算の承認
- 以上の五議案が審議に付され、こちらも満場一致で議決されました。

同日、理事会が開催され、柘植理事長退任と新理事長の選定が行われました。

**センター
報告** 講演会の実施

平成三十年八月四日（土）、青梅市障害者就労支援センターの地域における公益的な取組みとして「障害者の家族が知っておきたい『親なきあと』」の講演会を行いました。講師として「親なきあと」相談室主催渡部伸氏をお招きしました。

**法人
おしらせ** 友愛学園祭の開催

今年度も恒例の「友愛学園祭」を左記の通り開催いたします。模擬店もおいしい物を沢山、準備しておりますので、是非舌鼓を打

てください。毎年人気のバザーコーナーやお子様には、ゲームコーナーもご紹介します。また、舞台上では児童部、成人部による演目の他、外部からの出演者もお招きして、華やかにまいります。

たくさんの方の来園をお待ちしております。

実施日…平成三十年十一月三日（祝）
時間…十時四十五分から十四時半
会場…友愛学園 園庭

**はあとびあ
おしらせ** はあとびあ祭の開催

渋谷地区では、十月二十日（土）に「はあとびあ祭」を開催します。模擬店の他、バザーやステージなどがご紹介します。はあとびあ原宿だけではなく、渋谷区内の他福祉施設からの作品販売などが毎年、人気を博しています。

多くの来園をお待ちしております。
実施日…平成三十年十月二十日（土）
会場…はあとびあ原宿

**法人
予定** 法人研修予定

◆正副主任研修

（タイムマネジメントについて）
講師…新宿区地域生活支援センター
1 施設長 和賀未青氏

◆法人研修
平成三十年八月二十八日（火）

（権利擁護について）

講師…日本自閉症学会山崎順子氏
平成三十年十月二十五日（木）

◆法人実践報告会

平成三十一年二月二六日（木）

編集後記

残暑というには、あまりにも暑かった今夏。避暑を求め青梅にいられた方が「やっぱりここも暑いですね」と呟かれていた。何と今年、七月二十三日に東京都内観測史上初となる四〇度超え（四〇・三度）を記録したのが、ここ青梅でした。ニュースでもこの異常気象を「新時代」と揶揄するように報じていた。当法人は昨年、六十周年を迎え、今年が六十一年目。舵取り役でもある理事長の交代などもあり、こちらは正に「新時代」と変わります。

そして、私ごとですが、今年度より、この広報誌の編集を任されることになりました。「熱い」情熱で誌面を作りたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。